

神奈川県博物館協会会報

第 90 号



2019

神奈川県博物館協会

表紙解説

新江ノ島水族館 新規展示生物「コツメカワウソ」について

コツメカワウソは、インドから中国南部、東南アジアに分布し、河川などの周辺、沼地、湿地帯、沿岸部に生息する体長約40～60cmの最小種のカワウソ類である。寿命は15年ほどで、現在日本国内の飼育数は増加傾向にあるが、野生下では開発による生息域の減少や、毛皮やペット目的の密猟により生息数が減少している。

新江ノ島水族館では、2018年3月3日より新展示「カワウソ～木漏れ日のオアシス～」をオープンした。この展示（横幅6m、奥行3m）は、コツメカワウソが生息する東南アジアの水辺の環境を再現し、メイン展示エリアでは、流れのある小川、岸辺の岩盤、岩場から染み出る岩清水、隣接する森の大木、巣穴などを設けた（図：左上）。また、来館者がコツメカワウソの姿や習性などを観察できるように、吊り下げ式の遊具や玩具などを備えている。メインエリアからサブエリア（図：右上）へと空中トンネルを通じて自由に行き来きできる点もこだわりのひとつである。

3月の展示開始から1年が経過し、ヨモギとミサキ（図：左下）の間には、昨年12月21日に1頭、22日に2頭の子が誕生し、現在は5頭で（図：右下）過ごしている。コツメカワウソは夜行性ではないが1日の大半を寝て過ごしているため、元気に動き回る姿を見ることの方が貴重な時間といえる。巣穴で寝てしまうと姿が見えなくなるため、ハンモックを設置して寝姿もご覧いただけるように工夫を行った。

コツメカワウソたちの1日の給餌は3回で、1回の給餌時間は約10分間、その時間を利用して体重測定を実施している。今後体温測定や採血も行えるようトレーニングを重ね、健康管理に力を入れて行く予定である。現在は、子獣が両親と同じ魚の切り身を食べられるよう、離乳トレーニングに取り組んでいる。

今後もコツメカワウソたちがみなさんから愛されるよう、いろいろ取り組みを実施したい。

- ヨモギ（雄）2008年生まれ 10歳（チェコで繁殖）。大分マリーンパレス水族館「うみたまご」より搬入。落ち着きゆっくりと動き回る姿が何とも大人らしさを漂わせている。
- ミサキ（雌）2017年2月7日生まれ 1歳。「みさき公園」より搬入。名前は一般公募により決定。ヨモギが大好きなお転婆。
- 子3頭（雄2頭、雌1頭）2018年12月21、22日生まれ0歳。当館で繁殖（父親：ヨモギ、母親：ミサキ）